

抗 GFP 抗体, ウサギ抗血清

60-011 100 μ l

保存: 4 $^{\circ}$ C または -20 $^{\circ}$ C で送付、-20 $^{\circ}$ C で保存。

免疫原: リコンビナント His-tagged EGFP

形状: 0.05% sodium azide 添加血清

反応性: GFP, EGFP, EmGFP および GFP-tagged タンパク質

用途:

1. ウェスタンブロッティング (1/2,000 希釈)
2. 免疫沈降
3. 蛍光免疫染色及び蛍光免疫組織染色 (1/4,000)

背景: Green fluorescent protein (GFP) は 238 アミノ酸 (26.9 kDa) から成り、もともとはオワンクラゲ *Aequorea victoria* より分離されたタンパク質で、青色光で励起された場合緑色の蛍光を発する (文献 1)。細胞生物学、分子生物学の分野では、GFP 遺伝子を他のタンパク質遺伝子と融合させ、融合タンパク質の分布や発現を調べることができるため、GFP は有力なツールとなっている (文献 2.3)。

データリンク: Swiss-Prot [P42212](#) (GFP_AEQVI)

関連製品: [60-001](#) 抗 GFP 抗体、ラットモノクロー (1A5)

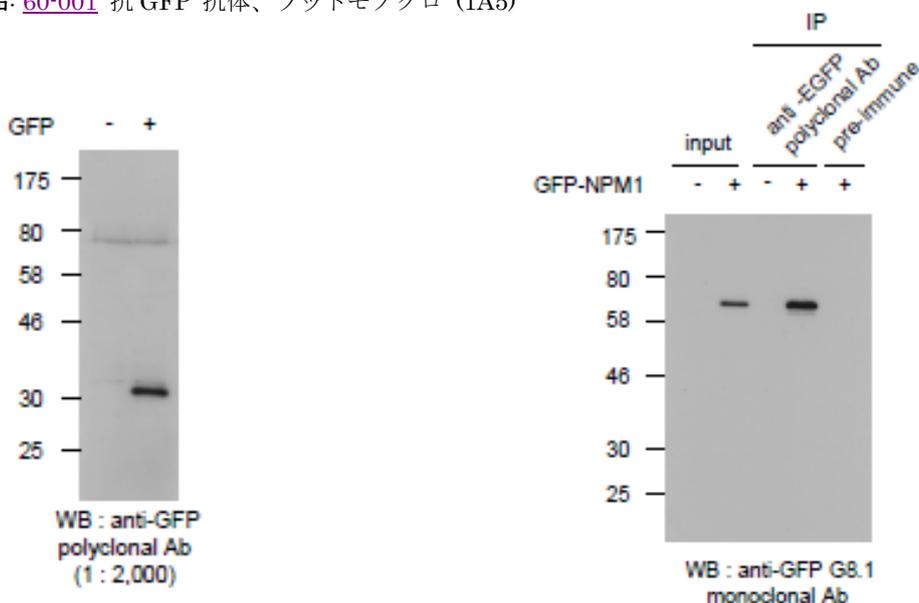


図 1 GFP タンパク質のウェスタンブロッティング

- : 空のベクターをトランスフェクトした 293T 細胞の抽出液
- + : GFP 遺伝子を担っているプラスミドをトランスフェクトした 293T 細胞抽出液

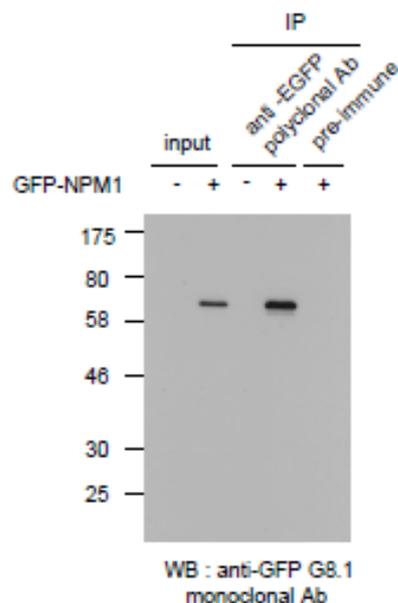


図 2 GFP-Tag をつけた NPM1 タンパク質の免疫沈降とウェスタンブロッティング

- : 空のベクターをトランスフェクトした 293T 細胞抽出液
- + : GFP-tagged NPM1 遺伝子を担っているプラスミドをトランスフェクトした 293T 細胞抽出液

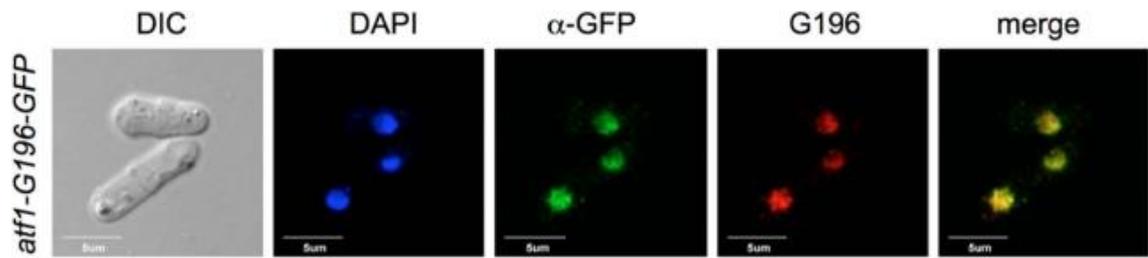


図 3 GFP-と G196-タグをつけた核タンパクを発現させた分裂酵母の免疫蛍光染色 Atf1-G196-GFP expressing cells were fixed and incubated with mAb G196 and anti-GFP polyclonal Ab (BioAcademia 60-011), then stained with Alexa-594 anti-mouse and Alexa-488 anti-rabbit secondary antibodies. (This figure is taken from Fig 5 of Tatsumi et al, [Sci Rep.](#) 2017 Mar 7;7:43480 as cited in Reference)

文献: 本抗体は下記の論文で使用されている。

Tatsumi K et al, G196 epitope tag system: a novel monoclonal antibody, G196, recognizes the small, soluble peptide DLVPR with high affinity. [Sci Rep.](#) 2017 Mar 7;7:43480. PMID: [28266535](#). **WB, IF**